

新北海道スタイル デジタルイノベーションプログラム (仮) v2

R4.6.9

北海道経済部産業振興課
スタートアップ担当

なぜやるのか？

• ビジネススタイルの変容＝新北海道スタイル

- ウィズ／アフターコロナを見据え、新しい行動スタイル（ライフスタイル）のみならず、社会システム（ビジネススタイル）の変革をも、可視化することにより、広く周知する必要がある。

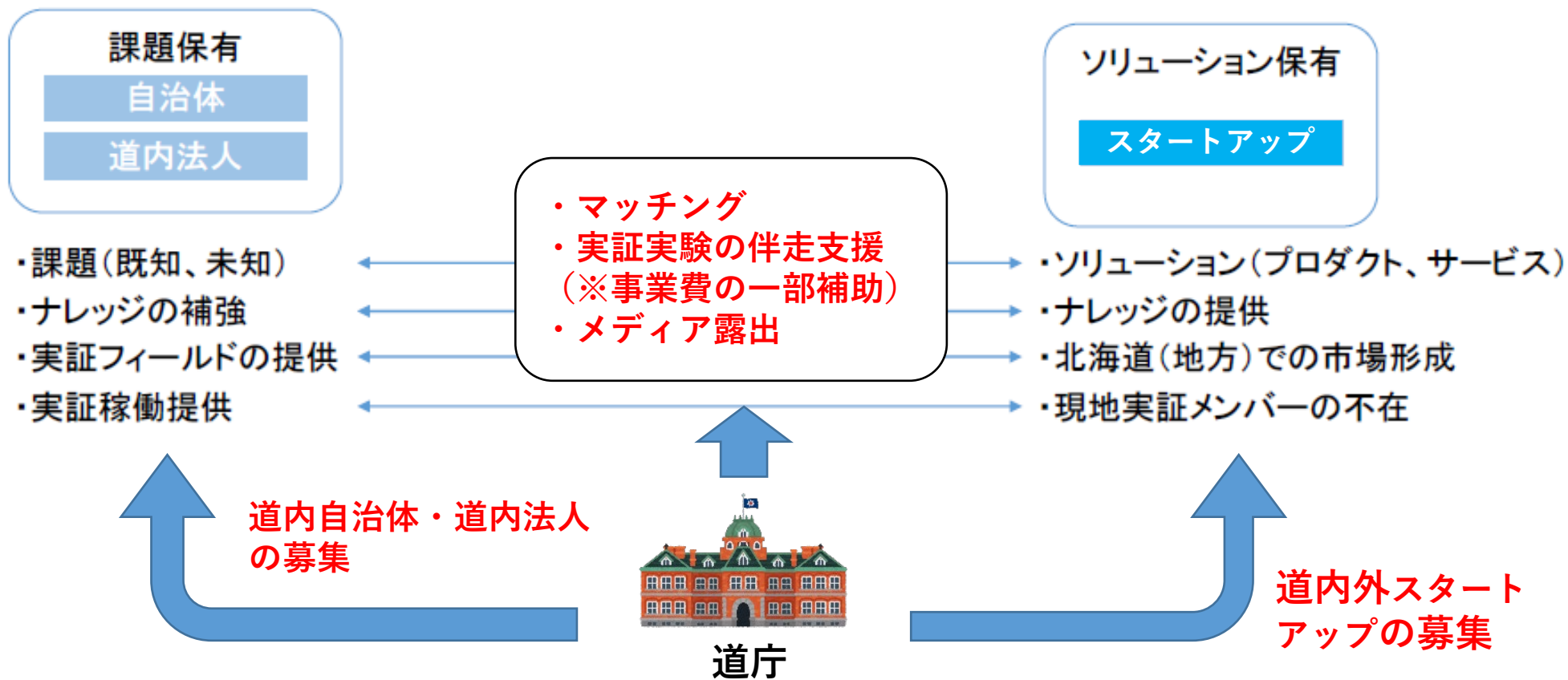


• スタートアップ・エコシステムの高まり

- 「札幌・北海道スタートアップ・エコシステム推進協議会」が国の「スタートアップ・エコシステム推進拠点都市」に選ばれるなど、地域の産学官の連携により、スタートアップを支援するエコシステムが立ち上がりつつある。（道庁内にもR4.4からスタートアップ担当2名配置）
- 「骨太の方針2022」5つの重点投資にもスタートアップが明記

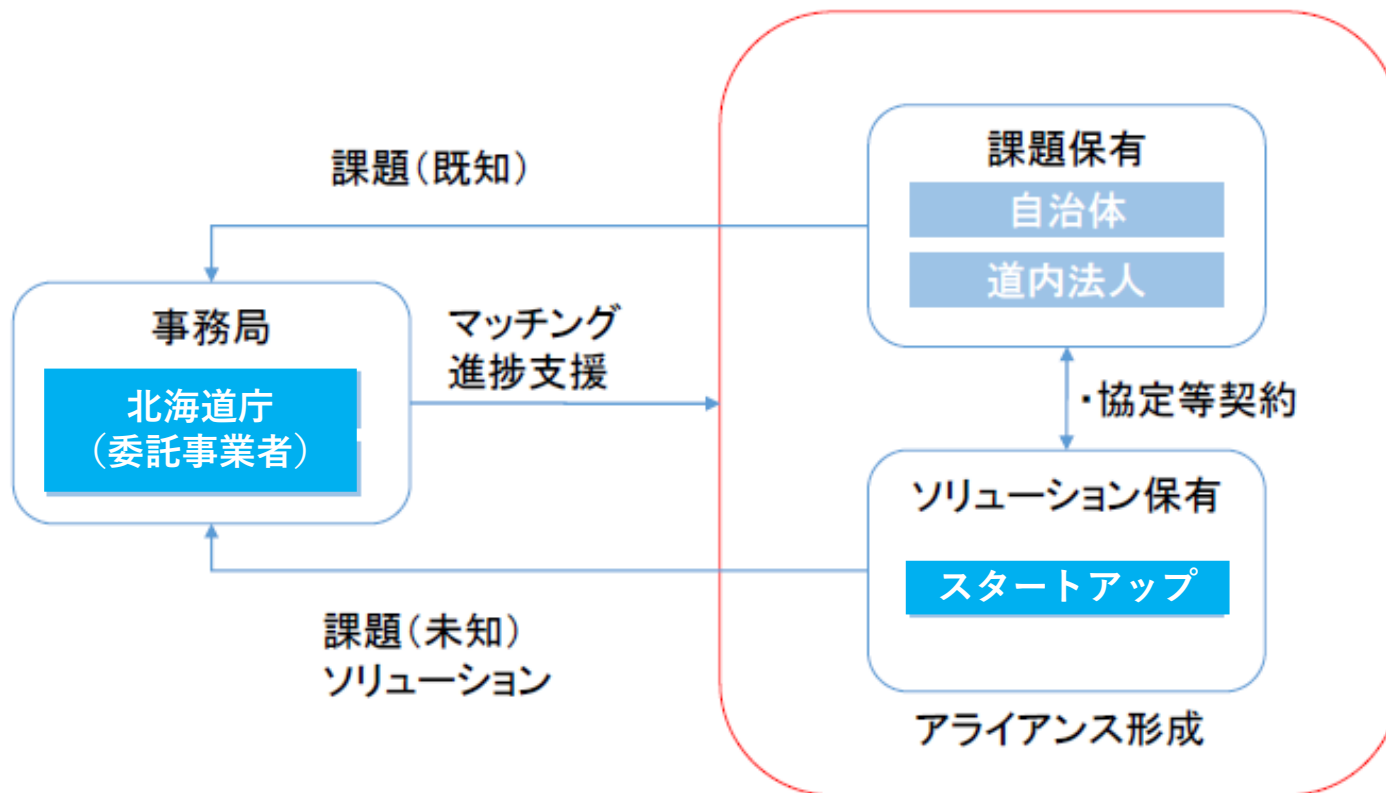
**コロナ禍で生じた北海道の課題を、
スタートアップに解決（実証実験）してもらうことにより、
ビジネススタイルの変容（新北海道スタイル）を普及させる。**

何をやるのか？



課題を保有する「道内自治体」or「道内法人」とソリューションを保有する「スタートアップ」をマッチングすることにより、実証実験を行う。

どうやるのか？

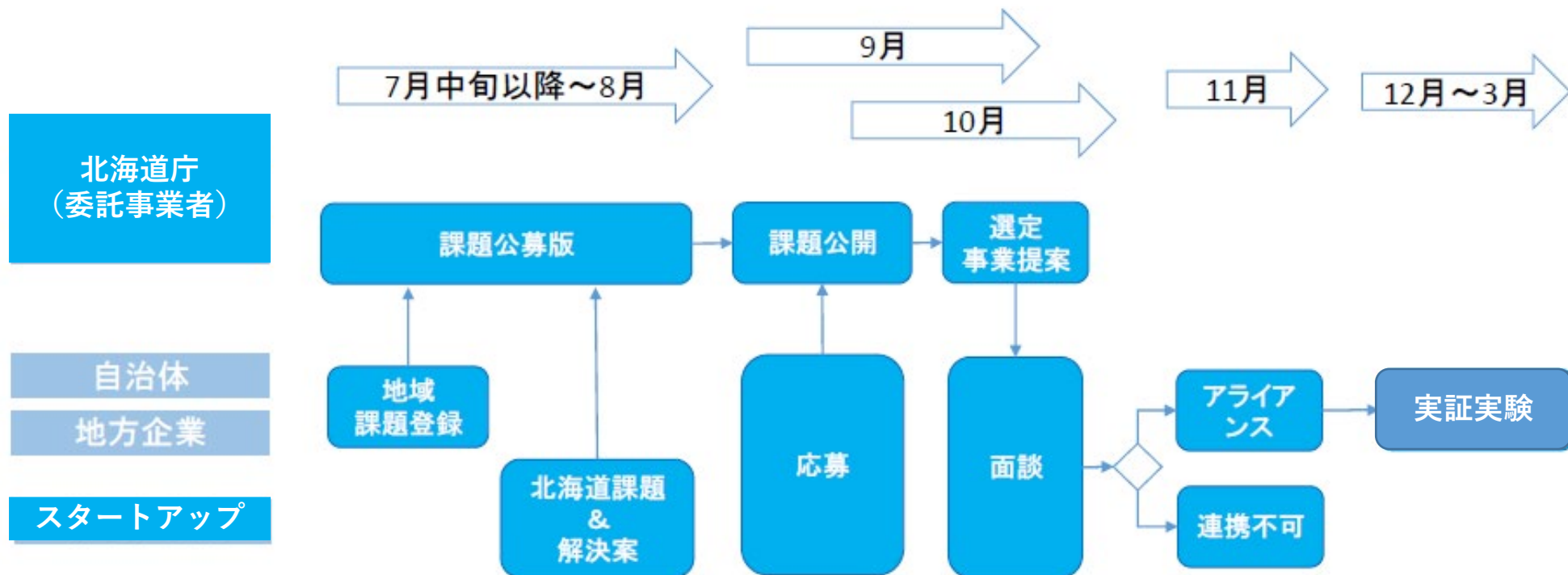


実証実験は、「自治体」or「法人」と「スタートアップ」の二者間で行い、道庁（事務局）はその調整業務を行う。実証実験の結果次第で、翌年度以降の継続も可能。（自由裁量）

本事業への参加メリット

対象	メリット
道内自治体・道内企業	<ul style="list-style-type: none">・ 保有する課題に対して、どんなスタートアップから、どんな提案があるのかが分かる。・ 実証実験にかかる費用（一部）を道が負担することにより、本格実装に向けた検討が可能。
スタートアップ	<ul style="list-style-type: none">・ 保有するソリューションが適応する自治体や企業を道庁がマッチングしてくれる。・ 実証実験をきっかけに、他の自治体や企業へ横展開（営業活動）がしやすい。

スケジュール（案）



地域（自治体・企業）からの課題募集、
スタートアップからの課題・解決案募集を経て、
12月～3月（3ヶ月程度）の実証実験を予定しています。

ニセコエリアにおける課題と解決案（例）

• 人手不足

- 地域情報に詳しく、英語対応可能な人材がコロナ禍でニセコエリアから離れて戻ってこない。
 - 観光案内所におけるコンシェルジュ
 - 各コンドミニアムにおける問い合わせ対応

⇒解決例）遠隔コンシェルジュで対応

• 二次交通

- 今後、新幹線も開通する倶知安駅からの二次交通（バス・タクシー等）が弱い。オンシーズンとの需供ギャップが激しい。シャトルバスが走っているが、活用しづらい。

⇒解決例）利用可能な輸送手段をスマホ上で見える化。

• デジタルインフラ

- ウィンターシーズンはもちろん、グリーンシーズンにおいてもワーケーションなど、デジタルインフラは長期滞在型リゾートエリアに欠かせないが、場所によって電波の強弱が激しい。

⇒解決例）wifiの強弱をスマホ上で見える化。